

## 主は私の受ける分 - ウォッチマン・ニー

1月1日

そのち、イエスが出て行かれると、レビという名の取税人が収税所にすわっているのを見て、「わたしに従ってきなさい」と言われた。すると、彼はいっさいを捨てて立ちあがり、イエスに従ってきた【ルカ 5:27-28】

ある時、主がとある場所まで来られ、収税所に座っているマタイ(レビ)と出会いました。主は、レビに「わたしに従ってきなさい」と呼びかけた。するとこの男は立ち上がり、主の後に従いました。知らない誰かが私たちに、『ついて来なさい』と言ったとして、誰が立ち上がり本当に従うでしょうか？そんなことをする人はいないでしょう。しかし、この方には、マタイは、鉄が磁石に吸い寄せられるように引き寄せられたのです。これまでの人生、財産もすべてを切り捨てて、主に従うしかありませんでした。マタイがこれまでの罪に満ちた人生に見切りを付けて、すべてを捨てるきっかけとなったイエス様の言葉の力を誰が知っているでしょう？この方を見るものはすべて、必ず悔い改め、やがて救われます。この方の声を聞くものは、新しい命を受けます。主の呼びかけを耳にした者はすべて、立ち上がり、彼の後に従います。

1月2日

どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の父が、知恵と啓示との霊をあなたがたに賜わって神を認めさせるように、…【エペソ 1:17】

私たちが本当に神を知っていたら、たとえ、どれほど多くの問題が目の前に立ちただかろうと、悩まされることはないはずです。他の人達は、さまざまなことを証明しようと躍起になっていますが、私たちクリスチャンはただひとつの大事な事実を証明できます。それは、神こそが神であって、真に実在する神を私たちが知っているということです。そして、神を知っていることで、あらゆる問題が解決されます。このような知識は、その根拠が論理的であるかとか、教理の明確さなどには頼るものではありません。ただ、上からの啓示のみに頼っています。このような啓示がどれほど必要かつ不可欠なものか。私たちが神ご自身を知ることができるように、啓示を与えてくださる御霊を尋ね求めなければなりません。こういった知識は信者の土台となるもので、きわめて重要です。

1月3日

それらのものによって、尊く、大いなる約束が、わたしたちに与えられている。それは、あなたがたが、世にある

欲のために滅びることを免れ、神の性質にあずかる者となるためである【Ⅱペテロ 1:4】

あるところに、数人の姉妹がいました。彼女たちは、いつも年の初めに決まりごとのように神に約束をいただくようお願いしていました。その中の一人の姉妹は、心配性でした。過去のことを振り返り、また将来のことを思えば、いつも恐れているような人でした。彼女は主に実情を打ち明けました。その結果、彼女は主から、このような約束をいただきました。『恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし(will)、(わたしは)あなたを助け(will)、わが(わたしの)勝利の右の手をもって、(わたしは)あなたをささえる(will)』。このイザヤ 41:10のみ言葉に含まれる6回の"わたし"と3回の"する(will)"を聞いて、彼女は頭を垂れ、神を礼拝しました。彼女は感動のあまり、喜びの涙を流し、この約束の完全さに感激しました。これから後、困難な問題や誘惑に直面したとき、彼女はこのみ言葉を自分に向かって読み聞かせ、神にも語りました。これによって、この女性は力を得、助けられ、長い年月を耐え抜くことができました。

1月4日

夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか【ローマ 13:12】

世の光としてのキリストはすでにこの世を旅立たれました。主が天に昇ったときから、再び主が再び来られるその時まで、この世の歴史は、長い長い暗闇の夜でしかありません。人間の見方によれば、この世界は常によく、明るくなり続けていますが、神の言葉を借りれば、『夜はふけて』きたのです(ローマ 13:12)。

私たちは今、真っ暗な夜のただなかにおり、あたりは暗闇に覆われていると感じます。あなたも、周りの暗闇に気がついていませんか？もし、私たちが光の中を歩み、キリストの中にいて、神の近くに住み、いつも肉の働きを裁き、聖霊の導きに従っていれば、今、生きているのは真に暗闇の世界であることを、自然に悟るはずです。

1月5日

わたしは、生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている【黙示録 1:17-18】

復活から離れては、命はありません。『エデンの園』の時代には、人間は命の木を見ていましたが、今、命は『復活』の中にしか見出せません。死が、世界に入ってからです。今日の命は復活によって象徴されます。このため、復活なく

しては誰も神に近づくことはできません。私たちの中にある命、私たち信者が今日知っている命は、死を超えてもたらされるものです。これが復活の命と呼ばれるのはこのためです。『復活』はなんと素晴らしいものでしょう。『わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きています』。今日の問題はもはや、いかにして行き続けるかではなく、どうしたら死者の中からよみがえることができるかということになりました。そして、私たちの主が今まさに、復活の地に立っており、そのために、私たちも同じ土地に立たなければなりません。復活の地に立つものだけが神の前に来ることが許されます。すべてのものは死を通り抜け、再び生きなければなりません。

1月6日

その子が大きくなったとき、女はその子をパロの娘のものと連れて行った。その子は王女の息子になった。彼女は、その子をモーセと名づけた。彼女は、「水の中から私がこの子を引き出したのです。」と言ったからである【出エジプト記 2:10】

モーセは生まれて3ヵ月後に水の中に漬けられました。後に、ファラオの娘が彼を水の中から引き上げ、そのまま自分の養子としました。このことから彼には、『モーセ』と言う名が与えられましたが、これは『水から引き上げる』と言う意味です。彼は、初めに引き上げられたものです。後に、イスラエルのたくさんの子供たちが、彼の後に列をなして歩き、水から引き上げられることとなりました(紅海の脱出)。荒野で、神はまずモーセと話し、後に神は同じ荒野で、モーセによってエジプトを抜け出した後のイスラエルの子供たちと対面しました。私たち自身が主に明け渡されなければ、他の人達が明け渡されるようにと願うことはできません。私たち自身に、主を見渡すことができなければ、どうして他の人達が神の道を見ることができるよう願うことができますか？今日、神は私たちとまず対面することを望んでおられます。そして、神が私たちのある者を捕らえた後で、始めて今度は私たちが他の人達を捕らえられるようになるのです。

1月7日

すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい【マタイ 11:28】

私はあるとき、説教をするためにある村に出向きました。そこで、重荷を負う経験をして、大いに学ぶことができました。私が訪れた村は丘の反対側にあり、電車も蒸気船も通っていませんでした。そこで、私はある地点まで蒸気船に乗り、船を下りてから丘を登り、また下って、ようやく村に着きました。その時は、たくさんの福音の冊子、パンフレット、いくばくかの食べ物と予備の衣服を運んでいました。初めの

20歩ほどは元気でしたが、その後はとても荷物を運ぶことができませんでした。私は早く村に着けば、すぐに休むことができるだろうと考えました。しかし、丘の上には強い日差しを遮ってくれる木の一本もありませんでした。そして、そのとき、私には罪びとがどれほどの重い労働につき、どれほど重い荷物を背負っているかが、分かりかけてきました。あなたたちの中には、主イエスを信じていない方もいるかも知れません。そのような方には休息がありません。ではあなた方はどこに向かっているのですか？主イエスさまの言葉を聴きなさい。『すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。』

1月8日

あなたがたは再び恐れをいだかせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を受ける霊を受けたのである。その霊によって、わたしたちは「アバ、父よ」と呼ぶのである【ローマ 8:15】

人が主を受け入れたとき、私たちは、その人がただ救われたと言うだけでなく、『作り変えられた』と言います。これは、その人が神によって新しく生まれたことを意味します。神から新しい命を受けたのです。神の命を持つことで、その人は、後ろ向きな言い方をすれば、罪を知ったと言えます。しかし、それだけではなく、前向きに言えば、同時に、神を知ったのです。なぜなら、私たちが受けたのは『奴隷の霊』ではなく、『子供であること』の霊だからです。私たちは、自然に神はきわめて親しみやすい方であり、主に對して、『アバ、父よ』と呼びかけることを非常に甘美なことと感じます。『御霊みずから、わたしたちの霊と共に、わたしたちが神の子であることをあかしして下さる。(ローマ 8:16)』。このため、神を父として知るのは、この命の内なる意識なのです。

1月9日

まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、それは天においてもつなぐられておりあなたがたが地上で解くなら、それは天においても解かれているのです【マタイ 18:18】

私たちの主が話されたこのみ言葉を、皆さんは何よりもよく覚えていると思いますが、この言葉が祈りについても語っていることをよく承知しておくべきです。ここでは、祈りと神の働きについて明確に語られています。天におられる神は、地上にいる子供たちが自分で結び、解いたものだけを、ご自身は結んだり、解いたりされるのです。結ばなければならぬものはたくさんあります。しかし神がそれをご自身で結ぶことはありません。神は、まず地上にいる信じるものたちが、自分で結ぶことを望まれます。また、解かれなければならないものもたくさんあります。しかし、これもまた、

神はご自身で解かれることを望んでいません。地上の信じるものたちが、自分の手で解くまで待ち、それから、天でご自身が解かれます。考えてみてください！天で行われるすべての行いは、地上での行いが支配しているのです！そして、同じように天におけるあらゆる動きは地上での動きに制限されています！神は、ご自身の働きを、信じる人々の手に任せることを、大いに喜んでおられるのです。

1月10日

**わたしは彼らと永遠の契約を立てて、彼らを見捨てずに恵みを施すことを誓おう【エレミヤ 32:40】**

契約とは何を意味するのでしょうか？契約は信仰、正義と律法について語っています。人間と契約を結ぶときは、関連するあらゆる事項について規定し、同意した点に従わなかった場合は、約束を破った信義にもとるものとされています。

人間と契約を結ぶとき、神は自らを低くして、ご自身を約束に縛り付けて制限されます。神は、私たち人間に所有して欲しいと願っておられるものを、私たちが所有できるようにするため、御自身の自由のも喜んでお捨てになるのです。いと高き神、天地の創造主であられる主は、人間と契約を結ぶために身を低くされました。このような恩恵には較べるべきものはありません。私たちはただ、恵みの神の前に頭を垂れ、礼拝することしかできません。

1月11日

**悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい【エペソ 6:11】**

この魂の武具は教会に対して与えられているのであって、個人個人に対してではないことを忘れないようにしましょう。教会が悪に立ち向かうことが求められています。あなたが個々の人間としては、見ることも身を守ることもできない相手であっても、他のメンバーの目には見え、身を守る事ができるのです。サタンはあなたの一人だけの祈りを恐れはしませんが、数人でともに祈る時は恐れおののくのです。組織のあるメンバーには信仰が大きな割合で与えられており、あなたを護る盾として用いられます。他の人には神の言葉が、特別な計らいで与えられており、これは精霊の持つ剣として立ち向かいます。この中の誰か一人が、また数人でも、剣を振るえば、一すなわち、神の言葉を使えば、それはあなたを助けるために、用いられるのです。霊的な戦いはおそらく、共同戦線となることを、念頭に置くべきです。

1月12日

**心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな【箴言 3:5】**

神に寄り頼むとはなんと難しいことでしょう！利口なものほど、信じることは難しいのです！才能のあるものこそ神聖なものに頼ることは苦しいものとなります！時に、私たちは、神が特別な力を与えてくれるのを待つことなく、動き始めます。私たちにあって、自分の才能を否定すること、神の前に完全に無力となって、自分の才能に頼らず、ただ主のみにより頼むことは、最も難しいことです。主は、私たちが自分自身を否定し、自分の力を否定し、すべての言動において、自分の弱さと無力さを認めることを望んでおられます。神からの賜物が現れることがなければ、私たちには、ことばを発することも、何かの行動を取ることもできないのです。このようなかたちでのみ、主は、私たちが主に依存することを望んでいるのです。

子供がまだ幼い頃は、両親からあらゆることを学びます。しかし、成長するにつれ、依存ばかりせず、独立した心を求める力と知恵を自分の中に持つようになります。私たちの神は、私たちが子供として永遠の関係を維持することを望んでおられます。これによって、神を信じ続けることができるためです。

1月13日

**力の限り、見張って、あなたの心を見守れ。いのちの泉はこれからわく【箴言 4:23】**

精神は人間のもっとも高尚な部分ではあるものの、その人を真に表すのは、精神ではなく心です。心こそが本物の『私』であると言ってよく、私たちの毎日の生活でそれがもっと重要なものであることは疑問の余地がありません。箴言 4章 23節の意味は、人間が結ぶすべての実は、心から外に出てくると言うことです。その品格も同じです。

心は、命の向かう方向を決める道、通路なのです。神が、ご自身の命を私たちの中に入れる前に、私たちの心を動かさなければならぬのはこのためです。心に何の悲しみも悔い改めもなければ、神の命も入ってくる事ができません。神は私たちの心に触れなければならぬ—これによって私たちは罪の痛みを感じ、神の甘美さとキリストの大切さを味わうこととなります。これは私たちに悔い改めを行わせるためです。

1月14日

**神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなたがたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです【コロサイ 1:27】**



神の真実はずべてが、有機的に連鎖しています。中心が存在しており、すべての真実がそこに向かっていきます。神のすべての真実を通じて紡がれる糸とは何でしょう？神のすべての真実とは、いったい何でしょう？主イエスとは誰でしょう？彼こそが私たちの救い主です、と答える人もいます。しかし、ペトロのように、彼が『神のキリストです』と答えられる人は、ほとんどいないのではないのでしょうか（ルカ9:20）。

神の真実の中心にあるのはキリストです。『神の奥義であるキリスト』とパウロも書いています（コロサイ2:2）。奥義は神の御心に隠されているものです。かつて、神はご自身がなぜ、天地を作られたのか、人間を含めて、誰にも語ったことはありませんでした。長い間、このことは不思議なる奥義とされてきました。しかし後に、パウロが人々の説明できるようにと、神はこの奥義を彼に現されました。そしてこの奥義こそがキリストであると、この使徒は述べています。

1月15日

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました【Ⅱコリント5:17】

自分が新しく作り出されたと聖書に書かれているのに、自分の姿を見ても、ちっとも新しく見えないじゃないか、と主張する方もいるでしょう。私はもう一度、これにお答えしたいと思います。信仰に欠けている罪びとや聖人がどれほど多くいることでしょう！私たち全員がひざまずき、こう祈るよう、お願いします、『神様、あなたを讃え、感謝します。あなたの言葉に、キリストにあるものは新しく生まれ変わった者だ、とあります。私はキリストにある者です。ですから、私は新たに生まれたものです』。あなたが誘惑にかられ、お前はまだ古い人間のまじじゃないかと言われても、私はキリストにあって新しく作られたものだという神のみ言葉を持って答えれば、サタンは尻尾を巻いて逃げ去ります。また、あなたがただ神のみ言葉の側によって立ち、そんな誘惑に見向きもしなければ、それによっても勝利を得るでしょう。なぜなら、勝利は感覚ではなく、神のみ言葉に頼るものだからです。

1月16日

アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図【マタイ1:1】

当然のことながら、ダビデの息子はソロモンです。主をダビデの息子と言うのなら、主はソロモンのものでありと述べていることとなります。ソロモンはその人生において、二つの

ことを特別に行いました。彼は知恵に満ちた言葉を語り、また聖なる神殿を気づいたのです。しかし私たちの主は、預言者としても造り主としても、ソロモンよりも偉大なるお方です。彼は御霊を送り込んで、霊の神殿を築き上げられました。

主をアブラハムの子孫として語ることもできます。聖書には、主がイサクと同じようになるはずであったことが記されています。生きていたころイサクも非常に優れたことを二つ行いました。ひとつは捧げ物となる祭壇を整えられたこと、もうひとつはヘブル人ではないリベカと結婚したことです。同じように、われらの主も十字架での犠牲として捧げられました。また、その死と復活によって、主は教会と結婚というかたちで結びつきましたが、その教会は異邦人とユダヤ人の両方から構成されていました。

1月17日

神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである【ヘブル1:1-2】

神の言葉は、私たちに、古い時代、神がいかにそのしもべを通して、人間に対する心からの愛の願いを私たちに示されたかを教えてくれます。それは、あらゆる場所、さまざまな形で現されましたが、人間の方は、それを理解し切れませんでした。このため、神はご自身がこの世界に降りて来られ、人間となるしかありませんでした。その人こそ、私たちがイエス・キリストと呼んでいるお方です。

栄光の神、ご自身が人間となってくださったのです。これほどの謙虚さがあるでしょうか！すべてのもののはるか上にあるお方が、ご自身を無にして、人間と同じ姿となる責任を負ってくださったのです。主イエスがこの世界で生きた人生全体は、神の愛する心を人間に向けて表現することが目的であったと言えるのではないのでしょうか。主のこの世での33年間において明らかにされたのは、神の心に他なりません。主がこの世で人間に対して行ったことは、そのまま神が人間に対して行うことです。

1月18日

十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である【Ⅰコリント1:18】

十字架について説教をするとき、私たちは十字架の人生をほかの人達に伝える者とならなければなりません。私にとって大きな痛みは、今も多くのものが説教の中で十字架について語っているのに、聴衆のほうは神の人生を受け取っているように見えないことです。人々はわれわれの言

葉を聴き、それに賛同して、喜んで受け取っているように見えますが、そこには神の人生が存在していません。

人間の考え、言葉、雄弁さ、議論は、人間の魂をかき乱すことしかできません。こういったものは人間の感情、心や意思を駆り立てるだけです。しかし、命は人間の精神に到達します。そして、精霊の働きはすべて、私達の精神に対して成されるのです。すなわち、私達の内なる人に対してです(ローマ 8:16、エペソ 3:16を参照)。私たちが、霊的な経験の中で、命を精神へと送り出すと、精霊は自分の命を、他の人間へと送り込み、その人たちが生まれ変わった命や、より豊かな命を受け取れるようにしてくださいます。

1月19日

### はじめに神は天と地とを創造された【創世記 1:1】

ほとんどの人々は、中国人、バビロニア人や他の古代人の間に伝わっている天地誕生の神話物語を聴くと笑います。科学者は、こんな神話物語には、反証する意味すらないと思っています。何故でしょう？このような伝承自体には、何の価値もないので、特別に注意を払う意味すらないからです。聖書に対する人々の態度はしかし、まったく違います。多くの人々が聖書に書かれた物語に必死に反証しようとしていることが、聖書の力を証明しています。彼らはこの書物を、他の国に伝わる伝説と同じように取り扱ったりしません。この事実こそが、聖書の置かれた圧倒的な位置を示しています。

創世記の第1章を呼んで、その独自さに目を見開かずにいられる人がいるでしょうか？誰でも、知っている話でありながら、あまりに驚嘆すべき物語ではないでしょうか！真実が、これほど分かりやすく単刀直入に示され、理論で説明することもありません。ここに書かれた話が真実そのものであることは、議論したり、証明しようと試みる必要もありません。主がご自分で書かれた物と比較しても、主ご自身があまりに大きいため、その著者が本に縛られることはありません。ただ著者ご自身が神であるため、宇宙をはるかに超越しているのです。

1月20日

それゆえ、今あなたと、このすべての民とは、共に立って、このヨルダンを渡り、わたしがイスラエルの人々に与える地に行きなさい。あなたがたが、足の裏で踏む所はみな、あなたがたに与えるであろう【ヨシュア記 1:2-3】

カナンの地に入ろうとしていたのはすべて、信仰を持った人たちでした。彼らは神の言葉を手にしっかりと持ったままヨルダン川を渡りました。しかしヨルダンを過ぎた時、彼ら

はすぐにすべての土地を手に入れたでしょうか？サタンは決して、神を信じる人たちにそんなに甘くはありません。エリコの壁は高く、城壁の扉は硬く閉じたままでした。こんな状況に陥ったとしたら、私たちはおそらく神のところにへ出向いて不満をぶつけるのではないのでしょうか？『あなたはカナンの地を私たちに与えるとおっしゃったのに、川を越えてここに来て、エリコの壁はこんなに高いし、街を護る門は堅く閉じています。約束されたことと違うではないですか？』イスラエルの子供たちは、そのようなことはしませんでした。彼らは神の言葉を信じ、神のお約束をしっかりと握りしめました。彼らは町の城壁の周りを一日一度、7日間、回り続け、7回目に街の周りを回ったとき、叫び声をあげると、それに応えるように、エリコの壁は崩れ落ちたのです。そして、それから後、次々と街を占領し続けたのでした。

1月21日

### 私ヨハネは、・・・神のことばとイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた【ヨハネ黙示録 1:9】

神の言葉とイエスのあかしに対する信仰心の強さのために、ヨハネはパトモスと呼ばれる島に流されました。人間的な見方をすれば、ヨハネにとって、こんなに孤立した場所に置き去りとされたのは、さぞかし、孤独で惨めな経験と言うことになるでしょう。しかし、彼は不平も不満も言いませんでした。それは、自分が誰のために苦しみを受けているかをよく知っていたからです。神を褒め称え、感謝せよ。このような状況でこそ、栄光あるキリストは彼に現れ、新たな啓示と、よりいっそうの信頼とを彼に与えました。ああ、そのときのヨハネのために、地は引いてゆき、天は開けてゆきました。この出来事を思うと、塔の中のヨセフ、荒れ野のモーセ、試練が続いたダビデ、囚われの身となったパウロを思い出さずにはいられません。彼らがどうして生々しい啓示をいただいたかということ！これからヨハネは、これらの人々の足跡を追い始め、それまではまったく知らなかったビジョンを受けました。彼はついに王座に座る主を知ることとなったのです。

1月22日

ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言った【マタイ 14:30】

水の上を歩いた時、ペテロは決して強風に気を取られてはなりません。彼は、主の御言葉をいただいていたのですから、風や波を見てはいけなかったのです。それを見たために、彼は簡単に、主の御言葉を忘れてしまいました。まず第一に、御言葉がないときは、どれほど静まりかえっていても、決して水の上を歩くことはできません。水の上を歩くということは、風や波のおかげでできる分けではない

のですから、それらを見てはいけません。誰でも、主だけを見なければならぬのです。

1月23日

それから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい【マタイ16:24】

自身を否定するとは、自分自身の存在を無視し、また、自分の持つ権利を捨てることを意味します。自分自身を否定するとは、神の御心を探る中で、自身を退けることであり、これによって、すべての事で自分の心には従うことができなくなり、また、自己中心を排除することに他なりません。そのような人だけが主について行くことができます。これは、あまりに自明のことです。自分自身を求める人が、どうして主について行くことができますか？

『自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい』、これは自身を否定するより、更に深いことです。自分を否定するとは、自分の存在を軽視するに過ぎないのに対し、十字架を背負うことは神に従うことを意味しているからです。十字架を背負うとは、神がその人に対して定めたことを必ず受け入れること、そして神の意思に沿った苦しみを喜んで受けることを意味します。自身を否定し、十字架を背負うことで、本当の意味で主に従うことができます。

1月24日

また、神の栄光ある権能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし…【コロサイ1:11】

神のみ力が内側で働く時、信者の間には平和と調和が見られます。神の栄光ある権能は、神の力の中でもっとも偉大なものです、このような栄光に満ちた権能を与えられたことで、私たちは、人間にはとても想像もできないような奇跡的な功績をあげることができるのです。『忍耐と寛容を尽くし、…喜びをもって』、これは神の力のもっとも偉大な現れです。面倒を起こす信者に対して忍耐を持つことは、祈って神の答えを受けるよりも難しいことです。忍耐強くあるのは苦しいことですが、神の力が、それを可能にしてくれます。キリスト者が神の力の働きを受け、それに満たされる時、その方が人々と平安を保ち、また忍耐強く寛容になれるのが分かります。

1月25日

私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししていません【ローマ9:1】

新生に際して、私たちの良心も復活します。主イエスの血が良心を洗い清め、穢れなく、研ぎ澄まされたものとします。聖霊は私たちの行動に関して、私たちの良心の中に語りかけてきます。私たちが間違いを犯したら、私たちの良心に働いて、私たちをたしなめるのです。何であれ、自分の良心が咎めるときは疑いなく、神が非難したのだと言うことに注意しましょう。このことから、私たちの良心が何かを間違っていると宣言したのなら、それは間違っているのです。その何かは、悔い改めて、告白し、主のかけがえのない血で清められなければなりません。私たちは、恐れることなく、神に仕えることができます。そのためには、純粋ではっきりした良心がなければなりません。

1月26日

また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、自分の目の中の梁には気がつかないのですか【マタイ7:3】

この前の節(1~2節)において、主は、私たちに裁くことをしないように警告し、代わりに慈悲深くあるようにと勧めておられます。この箇所では、人を裁くことは間違いであることを教えてください。自分の目に梁があることは、間違いありません。誰かが他の人の目にちりを見たとき、その者は明らかに自分自身の目に梁があるからです。それは何故でしょう？なぜなら、非常に小さなちりを、兄弟の目の中に見るといふことは、あなたはちりを見つける専門家であるに違いないのです。あなたにはこのような罪を犯した経験があるからこそ、極めて簡単にそれを見つけることができるわけです。古い中国の格言にもありますが、泥棒を捕まえたければ、前科者を雇えというではありませんか。自分自身の罪が重いほど、人は兄弟の失敗には批判的になる傾向があります。

1月27日

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです【ガラテヤ2:20】

特別に注意しなければいけないことがひとつあります。神が私たちのために用意された完全な救いは、完全な形で受け取らなければならないということです。私は罪のない完全な世界があること、罪の源が根絶されるとは信じませんが、神が私を力の及ぶ限り救ってくださることは信じています。私は、十字架が私を滅ぼすとは信じていませんが、主がそこで死なれたことは信じております。神が私の罪の根源を取り除いてくれたのではなく、神はキリストを私のうちに生きるようにと与えてくれるのです。キリストは、かつて十字架で私のために死にました。今、彼は私のうちに、私



のために生きています。神の救いの及ぶ範囲は、私の罪の贖いが及ぶ範囲です。不機嫌さ、不浄、不安や肉欲を持ち続ける必要はどこにもありません。神は、私たちを悪から解き放つことができ、また、善をくれることもできるのです。

1月28日

私は、ひとり残って、この大きな幻を見たが、私は、うちから力が抜け、顔の輝きもうせ、力を失った【ダニエル 10:8】

豊かな人生は啓発からもたらされます。私たちの上に光が照らされると、私たちは豊かになります。不思議なことですが、このような啓発を受けるとき、自分の側では盛んになるというより衰えていくような気持ちになります。これは光の明るさが、あなたの過去の物の見方を打ち砕くからです。あなたが、元から持っていたものを打ち壊します。神から照らされる光のもとでは、私たちは実際には盛んになるのですが、実際にはそのようには感じません！もし、すべてに神が光を当てられたかのごとく、あなたが自分は盛んになったと思ひ込んだとすれば、現実にはあなたには何も見えていなかったのです。しかし、あなたがほんとうに見ることができた時は、あなたの感覚に関して言えば、あなたはただ虚しさを感じ、霊的な人生の旅路をまだ歩き始めてもいなかったかのように思うことでしょう。真に豊かな者は、自分自身は神の光の元では何の価値もないものと感じるのです。

1月29日

あなたがたの咎が、あなたがたと、あなたがたの神との仕切りとなり、あなたがたの罪が御顔を隠させ、聞いてくださらないようにしたのだ【イザヤ 59:2】

R.A.トーレーがある場所で講演していると、一人の大学生が彼の前に進み出て、こう言いました、『私は以前は神を信じていましたが、最近はどうも信じていません。あれこれ本を読みましたが、結局は、神の言葉から遠ざかってしまいました』。トーレー氏はこう応えました、『私を騙そうとするのはやめなさい。私だって大学生だったんですから。私もたくさん本を読み、博士号を取りました。しかし、私は神の言葉から遠ざかることはありませんでした。ひとつ、質問させてください。あなたは今は神を信じていないと言うことですが、生活の道徳面ではどうですか？』これに対して学生は、率直に答えました、『正直に言うと、私の行動は倫理的には、以前ほど良くありません』。ここですぐに、トーレー氏は次のような細やかな言葉で締めくくったそうです、『あなたと議論する必要は私にはありません。ただ、悪い行いをやめ、道徳的な生活を始めれば、神はすぐにも戻ってきます』。なんという事実でしょうか。多くの人が神を

信じることができないのは、正当な理由があるからではなく、彼らの罪の重さが信仰から妨げているのです。彼らは無心論者への道へと押しやられています。

1月30日

勝利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出て行くことはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、すなわち、わたしの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたしの新しい名とを書きしるす【黙示録 3:12】

主の器は今日も同じです。初めに真実だったものは今も変わっていません。すなわち、個人的な何かではなく、共同体としての性質を持つものであり、それは、言葉を換えれば教会です。

人間は教会での勝利者はどのような人かという点を、知りたいと思うでしょう。確かに教会には勝利者が必要です。しかし、このような勝利者たちの証しは、個人ではなく、組織の利益のために求められるものです。勝利者とは、自分が有能だと信じている人々、他の人より自分の方が優れていると自負して、彼らを押しつける人たちとは違います。決してそうではありません。組織全体のために働く人たちです。彼らの働きによって、教会全体が利益を受けます。勝利者とは自分たちのために存在するのではなく、むしろ、教会を守るために立ち、教会を成長へと導きます。こうして、勝利者が勝利を得ることが、教会の勝利へとつながるのです。

1月31日

それで、このしもべは、主人の前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたします。』と言った。しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金を免除してやった【マタイ 18:26-27】

このたとえ話に出てくる主人だけでなく、天におられる私たちの神は更にそうですが、どちらも慈悲の心に突き動かされています。これは、しもべが借金を返したいと望んでいるからではなく、後者の悔い改めと謙遜と慈悲を願う心の故です。主は、しもべには借金を返すことができないことを良くご存知であられ、それゆえ負債を免除します。『許した…免除した』、この二つの動詞は、この時代に起こる出来事を説明しています。もし、このような出来事が、後の時代に起こり得るとしたら、主の義は危うくなるでしょう。今日、神は許すだけでなく、すべての負債を免除してくれます。神の寛大さは常に人間の予想を超えています。